

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	浦添宜野湾地区地域水産業再生委員会
代表者名	中西 聡明

再生委員会の構成員	浦添宜野湾漁業協同組合、浦添市、宜野湾市
オブザーバー	沖電開発株式会社

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	対象地域：浦添宜野湾漁業協同組合管内 組合員数：83 名（平成 27 年度） 漁業種別：ソデイカ漁業（32 名）・マグロ漁業（8 名）・一本釣（12 名）・潜水器（14 名）・刺網（2 名）・魚類養殖（4 名）・海ぶどう養殖（11 名）
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

浦添宜野湾地区は、沖縄本島の中南部に位置し、県都那覇市に隣接する浦添市（人口約11万5千人）の牧港漁港と宜野湾市（人口約9万6千人）の宜野湾漁港の2漁港を基盤とする地区である。また、本島北部と南部の流通の架け橋ともされており、近年の観光客増加に伴い観光産業も拡大し観光商業地域として発展している。他方、浦添市沿岸に米軍施設（牧港補給基地）が立地する影響で制限水域が設けられている。

浦添宜野湾漁業協同組合は浦添市に設置し、平成27年度の組合員数は83名（内准組合員7名）である。

漁協には75隻（平成27年度現在）の漁船が所属しており、内訳は3トン未満の小型漁船22隻、3トン～5トン漁船19隻、5～10トン漁船26隻、10～20トン漁船8隻である。

漁業種類別経営体数は83となっておりその内訳は、ソデイカ漁32、マグロ漁業8、深海一本釣8、浅海一本釣4、潜水器14、刺網2、魚類養殖4、海藻・海ぶどう養殖11である。

平成23年度の水揚量は約432.4トン、水揚金額367,441千円であったが、平成27年度の水揚量は約354.6トン、水揚金額は約374,920千円と水揚量は減少傾向にあるが、単価の上昇がみられたため水揚金額は上昇した。しかし、当地区の主要漁業であるソデイカ漁では、ここ数年漁場の遠方化が進み、1航海の日数と燃料費が増加している。また、漁業者の高齢化など漁業経営環境が厳しい状況にあることに加え、沿岸漁業資源（瀬物魚）の減少や魚価の低迷も漁業経営環境悪化の要因となっている。

主要漁業であるソデイカ漁 1 航海に必要な氷の量は、1 隻あたり平均 2.5 トンであるが、盛漁

期（1月～3月）になるとソデイカ漁船が同時に出港するため、日産11トンの製氷能力では出港が制限され、出漁に支障を来しており、早急な対応が必要となっている。

（2）その他の関連する現状等

- ・漁協は、将来の漁業の担い手確保の取り組みとして、地域の小中学校を対象に牧港漁港内の海ぶどう施設等の見学や職場体験等を実施している。
- ・漁協は、宜野湾市産業まつりにおいてソデイカ汁の無料配布等、水産物の周知活動を行っており、これが毎年好評を博している。来場者からは、ソデイカを使用した加工商品の要望が多く聞かれる。また、同まつりでは地域児童を対象に、近海でとれた魚の手掴み大会も同時開催している。
- ・漁協は、地元企業や地域中学生を対象に浦添市でだこハーリー大会（舟漕ぎ）を毎年開催しており、数多くの参加者がレースや体験等を楽しんでいる。

3 活性化の取組方針

（1）基本方針

【漁業者収入向上対策】

1 鮮度保持技術の普及

漁協は、衛生管理を徹底するとともに漁業者を対象にした船上（ソデイカ・マグロ・潜水器・一本釣等）での血抜きや神経締め等、鮮度保持に係る技術講習会を定期的に開催し、鮮度保持技術の普及に取り組み、魚価の向上を図る。

2 製氷能力向上のための製氷施設改築及び冷凍冷蔵庫の増設

既存製氷施設の生産力では供給が間に合わず、マグロ及びソデイカ漁への出港に支障を来している状況である。そのため、既存製氷施設を改築し、製氷機及び冷凍冷蔵庫の増設を行い、安定的な氷の供給とマグロ及びソデイカ等の水産物高鮮度保持に取り組み、魚価の向上を図る。

3 地域ブランド商品の開発

漁協は、主要魚種となっているソデイカを活用した加工商品を開発するとともに、販売促進に取り組み、漁業収入向上を目指す。

4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入

漁協は、小型製氷機器（海水流動製氷機）を導入し沿岸漁業の潜水器及び一本釣等で水揚げされる漁獲物の高鮮度保持に取り組み、魚価の向上を図る。

5 浮魚礁等の敷設

漁協は、漁業者との協議に基づき浮魚礁等を敷設し、マグロ類等の漁場を造成する。マグロ類が蟄集した漁場を近海に造成することで、漁獲量の増大を図り、漁業収入の向上に繋げる。

6 観光プログラムの展開

（1）海洋観光プログラム

漁協は、遊漁船を活用した観光プログラムを展開し、新たな漁業収入の向上を図る。

（2）体験型観光プログラム

漁協は、観光者を対象に組合員の指導によるハーリー体験や海ぶどう養殖施設及びサンゴや

海洋生物の陸上施設等の見学会等を展開し、新たな漁業収入の向上を図る。

7 漁業後継者対策

漁協は、漁業後継者対策として浦添市及び宜野湾市の教育委員会等の地域教育機関と連携し、職場体験や社会科見学プログラムを構築し、将来の新規漁業就業者の増加に繋がる取り組みを行う。

【漁業コスト削減対策】

1 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入促進

漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促進し、漁業経営の安定化を図る。

2 省燃油活動の推進

漁業者は、3航海～4航海ごとの船底確認及び船底清掃を行い、船にかかる抵抗負荷を軽減させ、燃油の消費量を抑えることにより漁業経営の改善を図る。

3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減

衛星船舶電話の導入により海上における漁業者間の連携を図り、漁場探索に係る経費及び燃油等のコスト削減及び効率化を図る。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁協は、共同第15号漁業権行使規則及び沖縄県漁業調整規則に基づき、イセエビ・シャコガイ等の禁漁期間及び体長制限の遵守に加え、沖縄海区漁業調整委員会指示に基づきソデイカの禁漁期間及び漁具制限等を遵守している。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成29年度）下記の取組により、漁業所得を基準年比3.0%の向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1 鮮度保持技術の普及</p> <p>漁協は、衛生管理を徹底するとともに、4月とソデイカ漁解禁前の10月の年2回、ソデイカ、マグロ、潜水器及び一本釣等の漁業者を対象に、血抜きや神経締め等鮮度保持に係る技術講習会を開催し、鮮度保持技術の普及に取り組み、魚価の向上を図る。</p> <p>2 製氷能力向上のための製氷施設改築及び冷凍冷蔵庫の増設</p> <p>漁協は、牧港漁港の既存製氷施設改築と製氷機及び冷凍冷蔵庫増設について、平成32年度着工に向けて協議を行い、基本計画書を策定する。</p> <p>3 地域ブランド商品の開発</p> <p>漁協は、ソデイカ等を原料とした加工商品の開発に取り組むとともに、浦添市商工会議所、宜野湾市商工会及び観光協会と連携し、販路確保のための調査を行う。</p> <p>4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入</p> <p>漁協は、高鮮度保持を目的とした小型製氷機器（海水流動製氷機）の設置について浦添市及び宜野湾市と協議を行う。</p>
--------------	--

	<p>5 浮魚礁等の敷設 漁協は、マグロ類の安定的な水揚げを確保し、漁業所得の向上に繋げるため、浮魚礁敷設に必要な漁場の調査及び費用の検討等を行う。</p> <p>6 観光プログラムの展開 (1) 海洋観光プログラム 漁協は、組合員の漁船を観光者向けの遊漁船として使用できるかについて観光協会等関係機関と協議を行う。 また、海洋観光プログラムを策定し、海洋観光資源の調査を行い、海洋観光資源の中で、地域企業や観光協会と対応可能な漁業観光の協議を行う。</p> (2) 体験型観光プログラム 漁協は、観光者を対象に組合員の指導によるハーリー体験や陸上施設内のサンゴや海洋生物、海ぶどうの養殖施設観光見学会等のプラン策定等を行う。 <p>7 漁業後継者対策 漁協は、漁業者の確保及び育成を図るため、小学生を対象とした社会科見学（海ぶどう施設）や中学生を対象とした職場体験学習への取り組みを行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油高騰に備え漁業経営の安定を図るため、組合員に漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を促す。</p> <p>2 省燃油活動の推進 マグロ等の漁業者は、3 航海～4 航海ごとの船底確認及び船底清掃を行い、漁船にかかる抵抗負荷の軽減や燃油の消費量を抑え、漁業経営の改善を図る。</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減 漁協は、衛星船舶電話の平成 31 年度導入に向け、導入に係る予算の算出等について船舶電話取扱い企業と協議し、浦添市及び宜野湾市に支援について要望等を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>【収入向上】 浦添市水産業振興対策事業 4・5・6 (1) 宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 4・5・6 (1) 宜野湾市水産業近代化奨励補助金 6 (1)</p> <p>【コスト削減】 漁業経営セーフティーネット構築事業 1 浦添市水産業振興対策事業 3 宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 3 宜野湾市水産業近代化奨励補助金 3</p>

2年目（平成30年度）下記の取組により、漁業所得を基準年比4.7%の向上を図る。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 鮮度保持技術の普及 漁協は、引き続き衛生管理を徹底するとともに、4月とソデイカ漁解禁前の10月の年2回、ソデイカ、マグロ、潜水器及び一本釣等の漁業者を対象に、血抜きや神経締め等鮮度保持に係る技術講習会を開催し、鮮度保持技術の普及に取り組み、魚価の向上を図る。</p> <p>2 製氷能力向上のための製氷施設改築及び冷凍冷蔵庫の増設 漁協は、牧港漁港の既存製氷施設改築と製氷機及び冷凍冷蔵庫増設の平成32年度着工に向け、前年度策定した基本計画書に基づき基本設計を行う。</p> <p>3 地域ブランド商品の開発 漁協は、ソデイカ等を原料とした加工商品の開発に引き続き取り組むとともに、浦添市商工会議所、宜野湾市商工会及び観光協会と連携し、販路確保について協議する。</p> <p>4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入 漁協は、小型製氷機器（海水流動製氷機）を設置し、潜水器及び一本釣等で漁獲されるアカジンやアカマチ等の鮮魚を高鮮度保持し、魚価向上による漁業収入の向上に繋げる。</p> <p>5 浮魚礁等の敷設 漁協は、前年度の調査結果を踏まえ、市の事業を活用した漁業用浮魚礁の敷設を行う。</p> <p>6 観光プログラムの展開 (1) 海洋観光プログラム 漁協は、前年度の協議・調査等を踏まえ観光協会等と連携し海洋観光誘致に向けての勉強会を行う。 (2) 体験型観光プログラム 漁協は、観光者を対象に組合員の指導によるハーリー体験を実施するとともに、地域企業と共同でサンゴの苗づくり体験や海洋生物、海ぶどう養殖施設の観光見学会（海ぶどう摘み取り体験や出荷選別体験）などの取り組みを行う。</p> <p>7 漁業後継者対策 漁協は、漁業者の確保及び育成を図るため、小学生を対象とした社会科見学（海ぶどう施設）や中学生を対象とした職場体験学習への取り組みを行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進 漁協は、燃油高騰に備え漁業経営の安定を図るため組合員に漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を引き続き促す。</p> <p>2 省燃油活動の推進 マグロやソデイカ等の漁業者は、3航海～4航海ごとの船底確認及び船底</p>

	<p>清掃を行い、漁船にかかる抵抗負荷の軽減や燃油の消費量を抑え、漁業経営の改善を図る。</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減</p> <p>漁協は、衛星船舶電話の平成 31 年度導入に向け、導入に係る予算の算出等について船舶電話取扱い企業と協議し、浦添市及び宜野湾市に支援について引き続き要望等を行う。</p>
活用する支援措置等	<p>【収入向上】</p> <p>浦添市水産業振興対策事業 4・5・6 (1)</p> <p>宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 4・5・6 (1)</p> <p>宜野湾市水産業近代化奨励補助金 6 (1)</p> <p>【コスト削減】</p> <p>漁業経営セーフティネット構築事業 1</p> <p>浦添市水産業振興対策事業 3</p> <p>宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 3</p> <p>宜野湾市水産業近代化奨励補助金 3</p>

3 年目（平成 31 年度）下記の取組により、漁業所得を基準年比 6.1%の向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1 鮮度保持技術の普及</p> <p>漁協は、引き続き衛生管理を徹底するとともに、4 月とソデイカ漁解禁前の 10 月の年 2 回、ソデイカ、マグロ、潜水器及び一本釣等の漁業者を対象に、血抜きや神経締め等鮮度保持に係る技術講習会を開催し、鮮度保持技術の普及に取り組み、魚価の向上を図る。</p> <p>2 製氷能力向上のための製氷施設改築及び冷凍冷蔵庫の増設</p> <p>漁協は、牧港漁港の既存製氷施設改築と大型製氷機及び冷凍冷蔵庫増設の平成 32 年度着工に向け、実施計画書を策定し、実施設計を行う。</p> <p>3 地域ブランド商品の開発</p> <p>漁協は、ソデイカ等を原料とした加工商品の試作品を製造し、地域産業まつりで試食会を開催し、ニーズに合わせた商品開発に取り組む。</p> <p>4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入</p> <p>漁協は、平成 30 年度に設置した小型製氷機器（海水流動製氷機）により、潜水器・一本釣等で漁獲されるアカジンやアカマチ等の鮮魚を高鮮度保持し、魚価向上による漁業収入の向上に繋げる。</p> <p>5 浮魚礁等の敷設</p> <p>マグロ漁業者は、前年度に敷設した漁業用浮魚礁に蟄集するマグロ類を釣獲することで漁獲量の増大を図り、漁業収入の向上に繋げる。</p> <p>6 観光プログラムの展開</p> <p>(1) 海洋観光プログラム</p> <p>漁協は、組合員の漁船を観光者向け遊漁船として検証及び活用等確認を</p>
--------------	---

	<p>行い、平成 32 年度実施に向けて実施計画を整える。</p> <p>(2) 体験型観光プログラム</p> <p>漁協は、観光者を対象に組合員の指導によるハーリー体験を実施するとともに、地域企業と共同でサンゴの苗づくり体験や海洋生物、海ぶどう養殖施設の観光見学会(海ぶどう摘み取り体験や出荷選別体験)などの取り組みを引き続き行う。</p> <p>7 漁業後継者対策</p> <p>漁協は、漁業者の確保及び育成を図るため、小学生を対象とした社会科見学(海ぶどう施設)や中学生を対象とした職場体験学習への取り組みを行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進</p> <p>漁協は、燃油高騰に備え漁業経営の安定を図るため組合員に漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を引き続き促す。</p> <p>2 省燃油活動の推進</p> <p>マグロやソデイカ等の漁業者は、3 航海～4 航海ごとの船底確認及び船底清掃を行い、漁船にかかる抵抗負荷の軽減や燃油の消費量を抑え、漁業経営の改善を引き続き図る。</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減</p> <p>漁協は、組合員の操業船に衛星船舶電話を導入する。漁業者間の操業に係る情報の共有化により燃油消費の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>【収入向上】</p> <p>浦添市水産業振興対策事業 4・5・6 (1)</p> <p>宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 4・5・6 (1)</p> <p>宜野湾市水産業近代化奨励補助金 6 (1)</p> <p>浜の活力再生交付金 2</p> <p>【コスト削減】</p> <p>漁業経営セーフティーネット構築事業 1</p> <p>浦添市水産業振興対策事業 3</p> <p>宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 3</p> <p>宜野湾市水産業近代化奨励補助金 3</p>

4 年目(平成 32 年度)下記の取組により、漁業所得を基準年比 6.8%の向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1 鮮度保持技術の普及</p> <p>漁協は、引き続き衛生管理を徹底するとともに、4 月とソデイカ漁解禁前の 10 月の年 2 回、ソデイカ、マグロ、潜水器及び一本釣等の漁業者を対象に、血抜きや神経締め等鮮度保持に係る技術講習会を開催し、鮮度保持技術の普及に取り組み、魚価の向上を図る。</p> <p>2 製氷能力向上のための製氷施設改築及び冷凍冷蔵庫の増設</p>
--------------	--

	<p>漁協は、前年度策定した実施計画書及び実施設計書に基づき牧港漁港の既存製氷施設の改築と大型製氷機及び冷凍冷蔵庫増設の工事を実施する。</p> <p>3 地域ブランド商品の開発</p> <p>漁協は、ソデイカ等を原料とした地域特産物の加工商品の販売を行い、県内外への展示即売会、商品販売、地域の海ぶどうとパッケージ販売、HPでの販売を行う。</p> <p>4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入</p> <p>漁協は、平成 30 年度に設置した小型製氷機器（海水流動製氷機）により、潜水器・一本釣等で漁獲されるアカジンやアカマチ等の鮮魚を高鮮度保持し、魚価向上による漁業収入の向上に繋げる。</p> <p>5 浮魚礁等の敷設</p> <p>マグロ漁業者は、引き続き敷設した漁業用浮魚礁に蟄集するマグロ類を釣獲することで漁獲量の増大を図り、漁業収入の向上に繋げる。</p> <p>6 観光プログラムの展開</p> <p>(1) 海洋観光プログラム</p> <p>漁協は、組合員の漁船を観光者向け遊漁船として活用し、海洋観光プログラムを実施する。</p> <p>(2) 体験型観光プログラム</p> <p>漁協は、観光者を対象に組合員の指導によるハーリー体験を実施するとともに、地域企業と共同でサンゴの苗づくり体験や海洋生物、海ぶどう養殖施設の観光見学会（海ぶどう摘み取り体験や出荷選別体験）などの取り組みを引き続き行う。</p> <p>7 漁業後継者対策</p> <p>漁協は、漁業者の確保及び育成を図るため、小学生を対象とした社会科見学（海ぶどう施設）や中学生を対象とした職場体験学習への取り組みを行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進</p> <p>漁協は、燃油高騰に備え漁業経営の安定を図るため組合員に漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を引き続き促す。</p> <p>2 省燃油活動の推進</p> <p>マグロやソデイカの漁業者等は、3 航海～4 航海ごとの船底確認及び船底清掃を行い、漁船にかかる抵抗負荷の軽減や燃油の消費量を抑え、漁業経営の改善を引き続き図る。</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減</p> <p>漁協は、平成 31 年度に組合員の操業船に導入した衛星船舶電話により、漁業者間の操業に係る情報の共有化による燃油消費の削減を引き続き図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>【収入向上】</p> <p>浦添市水産業振興対策事業 4・5・6（1）</p>

	宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 4・5・6 (1) 宜野湾市水産業近代化奨励補助金 6 (1) 浜の活力再生交付金 2 【コスト削減】 漁業経営セーフティーネット構築事業 1 浦添市水産業振興対策事業 3 宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 3 宜野湾市水産業近代化奨励補助金 3
--	--

5年目（平成33年度）下記の取組により、漁業所得を基準年比10.8%の向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p>1 鮮度保持技術の普及</p> <p>漁協は、引き続き衛生管理を徹底するとともに、4月とソデイカ漁解禁前の10月の年2回、ソデイカ、マグロ、潜水器及び一本釣等の漁業者を対象に、血抜きや神経締め等鮮度保持に係る技術講習会を開催し、鮮度保持技術の普及に取り組み、魚価の向上を図る。</p> <p>2 製氷能力向上のための製氷施設改築及び冷凍冷蔵庫の増設</p> <p>漁協は、前年度に実施した既存製氷施設の改築と大型製氷機及び冷蔵冷凍庫の増設により、出漁準備に要していた時間を削減するとともに、マグロ及びソデイカなどの水産物を高鮮度保持し、魚価の向上を図る。</p> <p>3 地域ブランド商品の開発</p> <p>漁協は、引き続きソデイカ等を原料とした地域特産物加工商品の販売を行い、県内外への展示即売会、商品販売、地域の海ぶどうとパッケージ販売、HPでの販売を行う。</p> <p>4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入</p> <p>漁協は、平成30年度に設置した小型製氷機器（海水流動製氷機）により、潜水器・一本釣等で漁獲されるアカジンやアカマチ等の鮮魚を高鮮度保持し、魚価向上による漁業収入の向上に繋げる。</p> <p>5 浮魚礁等の敷設</p> <p>マグロ漁業者は、引き続き敷設した漁業用浮魚礁に蟄集するマグロ類を釣獲することで漁獲量の増大を図り、漁業収入の向上に繋げる。</p> <p>6 観光プログラムの展開</p> <p>(1) 海洋観光プログラム</p> <p>漁協は、組合員の漁船を観光者向け遊漁船として活用し、海洋観光プログラムを引き続き実施する。</p> <p>(2) 体験型観光プログラム</p> <p>漁協は、観光者を対象に組合員の指導による観光者向けハーリー体験を実施するとともに、地域企業と共同でサンゴの苗づくり体験や海洋生物、海ぶどう養殖施設の観光見学会（海ぶどう摘み取り体験や出荷選別体験）など</p>
--------------	--

	<p>の取り組みを引き続き行う。</p> <p>7 漁業後継者対策</p> <p>漁協は、漁業者の確保及び育成を図るため、小学生を対象とした社会科見学（海ぶどう施設）や中学生を対象とした職場体験学習への取り組みを行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>1 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入推進</p> <p>漁協は、燃油高騰に備え漁業経営の安定を図るため組合員に漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を引き続き促す。</p> <p>2 省燃油活動の推進</p> <p>マグロ及びソデイカ等の漁業者は、3 航海～4 航海ごとの船底確認及び船底清掃を行い、漁船にかかる抵抗負荷の軽減や燃油の消費量を抑え、漁業経営の改善を引き続き図る。</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減</p> <p>漁協は、平成 31 年度に組合員の操業船に導入した衛星船舶電話により、漁業者間の操業に係る情報の共有化により燃油消費の削減を引き続き図る。</p>
活用する支援措置等	<p>【収入向上】</p> <p>浦添市水産業振興対策事業 4・5・6（1）</p> <p>宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 4・5・6（1）</p> <p>宜野湾市水産業近代化奨励補助金 6（1）</p> <p>【コスト削減】</p> <p>漁業経営セーフティーネット構築事業 1</p> <p>浦添市水産業振興対策事業 3</p> <p>宜野湾市農林漁業生産組織育成事業 3</p> <p>宜野湾市水産業近代化奨励補助金 3</p>

(4) 関係機関との連携

<p>浦添市及び宜野湾市</p> <p>水産業活性化に関する支援策（浜の活力再生交付金等）を活用するにあたり、実施設計や一部経費の負担等における協力。</p>

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上	%以上	基準年	平成	年度：	円
		目標年	平成	年度：	円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
浦添市水産業振興対策事業	<p>【収入向上】</p> <p>4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入 潜水器・一本釣などで漁獲されるアカジンやアカマチ等の水産物を高鮮度保持するため、小型製氷機器（海水流動製氷機）を導入。</p> <p>5 浮魚礁等の敷設 マグロ類の安定的な水揚げを確保し漁業所得の向上に繋げるため、漁業用浮魚礁敷設。</p> <p>6 観光プログラムの展開 (1) 海洋観光プログラム 漁業者の新たな収入源構築のため、観光プログラムを展開。</p> <p>【コスト削減】</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減 情報の共有化による燃油消費量削減のため、衛星船舶電話を導入。</p>
宜野湾市農林漁業生産組織育成事業	<p>【収入向上】</p> <p>4 水産物高鮮度保持機器（海水流動製氷機）の導入 潜水器・一本釣などで漁獲されるアカジンやアカマチ等の水産物を高鮮度保持するため、小型製氷機器（海水流動製氷機）を導入。</p> <p>5 浮魚礁等の敷設 マグロ類の安定的な水揚げを確保し漁業所得の向上につなげるため、漁業用浮魚礁敷設を行う。</p> <p>6 観光プログラムの展開 (1) 海洋観光プログラム 漁業者の新たな収入源構築のため、観光プログラムを展開。</p> <p>【コスト削減】</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減 情報の共有化による経費及び燃油等のコスト削減のため、衛星船舶電話を導入。</p>
宜野湾市水産業近代化奨励補助金	<p>【収入向上】</p> <p>6 観光プログラムの展開 (1) 海洋観光プログラム 漁業者の新たな収入源構築のため、観光プログラムを展開。</p> <p>【コスト削減】</p> <p>3 衛星船舶電話導入による漁業者間の連携及び漁場探索に係る経費の削減 情報の共有化による経費及び燃油等のコスト削減のため、衛星船舶電話</p>

	を導入。
浜の活力再生交付金	<p>【収入向上】</p> <p>2 製氷能力向上のための製氷施設改築及び冷凍冷蔵庫の増設</p> <p>安定的な氷の供給とマグロ及びソデイカなどの水産物を高鮮度保持し、魚価の向上を図る。</p>
漁業経営セーフティネット構築事業	<p>【コスト削減】</p> <p>1 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</p> <p>燃油高騰における漁業経営コストの軽減及び漁業経営安定を図る。</p>